

# とち帯広空港の経営改革について

## 「北海道における空港運営戦略の推進」(北海道発の提案)の提出について

### 【趣旨】

道内複数空港一括民間委託に関し、道が、民間委託を検討する空港立地自治体等から聴取した意見を参考に、国に対して北海道としての意見を記載した「国への要望書」。

### 【提出時期】

国と地方の協議の場である「北海道における空港経営改革に関する協議会」や、「道内空港の運営に関する検討会議」等を経て、12月26日に行われた知事と10市町長の意見交換会」で内容が確認され、同日に道が国に提出した。

### 【提出後の扱い】

提案の提出後は、この提案のほか、今後行われる各空港立地自治体との協議を踏まえ、国が市場意向調査(マーケットサウンディング)に向けた基本スキームを作成するため、帯広市は国や道と協議を進めていく。

## ● 同提案の素案からの変更点と地元意見の反映

### ✓ 数値目標を明記

一括民間委託の目的である、「来道者の大幅な増加」および「貨物取扱量の増加による輸出・移出の拡大」に対応し、4つの目標が設定された。

- 乗降客数  
2030年度3,000万～3,500万人/年、将来的5,000万人/年
- 来道外国人数  
2020年度以降に500万人(全国シェア12.5%)
- 貨物取扱量  
国際貨物は2030年度に2万トン(2015年度の2倍)  
将来的に国内+国際合計で30万トン/年
- 道内食品輸出額  
1,500億円(2025年北海道目標)に寄与。

### ✓ 各空港のめざす姿を記載

帯広空港のめざす姿  
「道東地域と道央地域の結節点、  
交通の要衝を担う中核空港」  
～経済と人々の交流を支える航空ネットワークの実現～

- 帯広空港のめざす姿として、日本を代表する食料生産基地を背後圏とする強みや、高い晴天率、新千歳空港との近接性といった地理的優位性を活かし、陸路・空路・海路の結節点として、物流拠点としても価値を高めていくことや、今後必要な取組みとして、二次交通インフラの拡充や、駐車場の容量確保・利便性向上などを明記した。
- 観光振興やインバウンド対策等、各空港共通の課題については、まとめて別途記載されている。

### ✓ 反映された事項

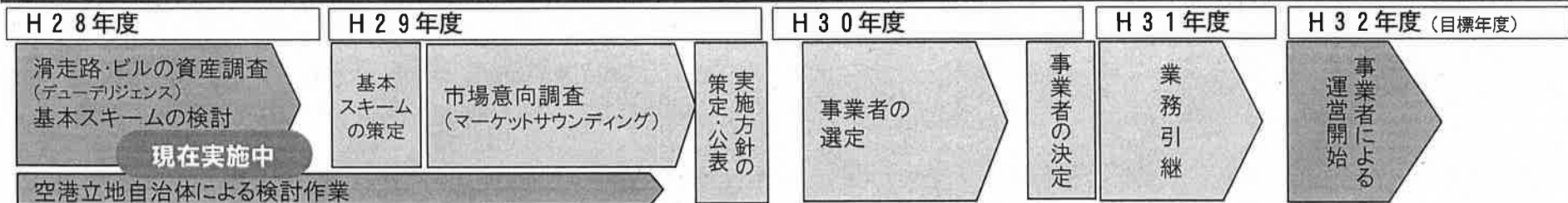
地元の検討会議や議会等での意見や、懸念を払拭するための事項は反映されている

- 道内全体での受入量の拡大と新たな需要の創出
- 安全・安心対策の実施
- 空港所在地域との共生
- 空港関係者の雇用の確保
- 地元企業等との良好な関係の継承
- 地元自治体等との連携協力

## ■ 今後も協議を継続する主な事項

- より良い競争環境を確保するため、事業者が参入しやすい制度設計
- 複数空港一括民間委託における、事業者選定方法やモニタリング手法の検討 など

## 道内複数空港一括民間委託に係る今後のスケジュール (国が想定しているもの)



## 帯広市の当面の取組み

- ・国や道などと協議しながら、来年度に予定されている市場意向調査(マーケットサウンディング)に向け、検討作業と準備作業を進めていく。
- ・広く意見を聞くことや情報提供を目的とし、地域住民や事業者を対象としたシンポジウムの開催を国が中心となって検討している。(帯広は平成29年2月開催で検討中)